

《 モンゴルコース 参加者一覧 》

都道府県	氏名	所属学校名	担当科目
東京都	曾根 裕二	東京都立光明養護学校	全教科
東京都	三東 高志	目黒区立碑小学校	全教科
東京都	坂田 明子	三鷹市立第一小学校	音楽
東京都	遠山 典江	杉並区立杉並第六小学校	全教科
東京都	的場 あき子	成城学園初等学校	社会
東京都	相澤 睦	聖学院中学校高等学校	理科
東京都	高石 和人	文京学院大学女子高等学校	音楽(外務広報代表)
千葉県	小関 勇次	千葉県立千葉西高等学校	地理・歴史

同行者	藤田 晃典	(社)青年海外協力協会
-----	-------	-------------

平成17年度 教師海外研修 モンゴルコース 研修日程

月日	時間	行程	宿泊地
8/2 (火)	7:35	羽田空港→関西空港→ウランバートル空港	コンチネンタル
8/3 (水)	9:15	JICAモンゴル事務所	コンチネンタル
		昼食	
	午後	市内視察①(自然博物館、歴史博物館、スフバートル広場、ザイサン丘)	
	18:00	民族音楽鑑賞	
8/4 (木)	9:00	市内視察②(ガンダン寺)	コンチネンタル
	10:45	市内学校視察(第28学校もしくは第73学校)(ODA(無償資金協力)による学校建設プロジェクト)	
	14:00	隊員活動視察①(テニス隊員教え子との交流)	
	16:00	Peace winds ジャパン活動視察② (PWJ)による「ストリートチルドレン対象デイケアセンター」プロジェクト	
8/5 (金)	9:30	日本大使館表敬	コンチネンタル
	11:00	隊員/帰国研修員活動視察②(第10治療幼稚園)	
	午後	自由行動(希望者はグループに分かれ市内散策可)	
8/6 (土)	8:00	ハラホリンへ向け出発(道中草原での昼食をはさみ)	遊牧民宅
	15:00頃	ハラホリン・エルデニゾー見学	
		ゲルステイ(羊解体)	
8/7 (日)		ゲルステイ	ウギノールゲル キャンプ
	午後	ウギノールに向け出発 ウギノール泊(原生態系保全と持続的利用のための集水域管理モデルプロジェクト)	
8/8 (月)	9:00	ボルガン県ゴルワンボラクソム(住民参加型学校建設プロジェクト)視察、	ボルガン研修セ ンター
	11:00	オルホンソムへ向け出発	
	14:30	オルホンソム着、昼食、住民参加型学校建設プロジェクト視察	
	17:00	ボルガン研修センター泊 (可能であれば帰国青年(地方教員)もしくはボルガン県教員を招聘、合宿)	
8/9 (火)	午前	モンゴル人教員とのディスカッション	コンチネンタル
	午後	隊員活動視察	
	夜	ウランバートル着	
8/10 (水)		自由行動(希望者はグループに分かれ市内散策可)	コンチネンタル
		モンゴル人家庭での夕食	
8/11 (木)	9:30	シニア海外ボランティア活動視察(第4火力発電所)	コンチネンタル
	13:30	ディスカッション(JICA事務所)	
8/12 (金)	6:00	ウランバートル空港→関西空港→羽田空港	

平成 17 年度教師海外研修（派遣国：モンゴル）実践報告書

東京都立光明養護学校

曾根 裕二

タイトル：肢体不自由養護学校在籍児童における国際理解教育の導入

実践教科：国語、算数（時間数：2時間）

対象生徒・学年：小学部高学年

対象人数：8名

カリキュラム案

(1)実践の目的

海外の写真や民族音楽を題材にし、見たことない景色をみたり、聴いたことのない音楽や言葉を聴いたりすることで、興味・関心の幅を広げるとともに、友だちや教員の話の聞いたり、やり取りしたりする力を身につける。同時に異文化に対する意識・理解を深める。

(2)授業の構成案

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1 限目 テーマ：夏休みに向けて ねらい：1学期の終了とともに、夏休みに向けて期待感を持つ。休み中の予定を意識する。	<ul style="list-style-type: none">・夏休みが始まることを伝える。・出かける予定のある児童はみんなの前で発表する。・教員も発表する。「飛行機に乗ってずっと遠くに行くよ」・夏休みが終わったら、それぞれ楽しかったことの発表会をやることを説明。	<ul style="list-style-type: none">・夏休みのしおり・擬似マイク・飛行機の絵カード
2 限目 テーマ：モンゴル文化に触れる ねらい：先生の発表を聞く。絵本読み等を通して、海外の文化に親しむ。海外の楽器、歌を	<ul style="list-style-type: none">・モンゴルに行ったことを話す。・大型スクリーンに写る現地の写真（景色・馬・ゲルなど）を見る。・大型スクリーンに写る絵を見ながらモンゴルのお話を聞く（モンゴル民話『スーホの白い馬』使用）。・モンゴルの音楽を聴く（民族音楽・ホ	<ul style="list-style-type: none">・スクリーン、写真・電子絵本教材・CD プレイヤー、CD

聞いてみる。	ーミー・馬頭琴)。 ・モンゴルの民族衣装 (デール) を着てみる。	・ 子供用のデール、 デジカメ
--------	--------------------------------------	--------------------

授業の詳細

I) 用いた教材

- ・ 視覚的な制限のある児童もいるので、写真や絵本の挿絵などは PC とプロジェクターを用い、大型スクリーンに映し出した。また、写真等の映像だけでなく、民族音楽【写真③】等も流し、聴覚からの情報として提示した。
- ・ 見慣れた景色とは違うモンゴルらしい草原やゲルなどの写真のパワーポイントを用い、スライドショーで見られるようにしておいた【写真①1から6】。
- ・ 絵本については、あらかじめスキャナーで挿絵を読み込んでおきパワーポイントを用い、スライドショーで見られるようにしておいた。
- ・ 絵本読みは日頃から慣れている活動でもあるので、児童も親しみやすい。モンゴルの絵本『スーホの白い馬』を使った。
- ・ 実体験に勝るものはないと考え、見るだけ、聞くだけの活動でなく、鮮やかな色の民族衣装 (デール)【写真②】を用意し実際に着てみた。

II) 授業内容

	時間	学習内容
導入	10分	夏休み中の楽しかった思い出を簡単に発表する。前回の自分の発表を思い出す (夏休み報告会として前回は子どもたちの夏休みの思い出を順番に発表した)。 教員 (曾根) がモンゴルに行ったことを知らせる。その時の写真を見てモンゴルに興味を持つ。
展開 まとめ	40分	『スーホの白い馬』の絵本を見る、聞く (「おはなし」を聞く活動は毎週行なっているので児童にとっては慣れた活動である)。 民族音楽<馬頭琴・ホーミーなど>を聴く、同時に導入時に見た写真のスライドショーを見る。 民族衣装 (デール) を実際に着て、お互いに見合う。

Ⅲ) 児童の反応

- ・授業開始時から、スクリーンを教室に出しておいたので、何が始まるのか興味を持って期待していた児童もいた。スクリーン自体大きいものなので視覚に制限のある児童や普段は集団での絵本読みになかなか集中できない児童も、しっかりスクリーンに顔を向けて聞いていた。
- ・『スーホの白い馬』の物語の内容を理解するのは難しい様子だったが、悲しい雰囲気のお話だというのは感じ取り、お話の途中で「泣いちゃう」と感想を言いながら聞いていた児童がいた。
- ・民族音楽は静かに聴いていた。その場で何か感想等を言う児童はいなかったが、授業後のトイレでホーミーの歌声を真似ていた児童がいた。
- ・デールを着る活動は最も盛り上がった。実際に経験できる活動が児童にとっても取り組みやすいので、いつもは消極的な児童も真っ先に手を挙げて「一番に着たい」と訴えたりもした。
- ・お話を聞いて、音楽を聴いて、写真を見て、民族衣装を着てみたが、「モンゴル」という国についての理解という点では難しい様子だった。

授業を行なったの感想

国際理解について、「モンゴル」という国について、児童にどのくらい分かりやすく伝えることができるか？ ということを考えて授業の内容を検討したつもりである。しかし（やはり）、1回の授業でそれらのことを児童に伝えきることは難しかったように思う。一方では、身近に無いような景色を見たり、普段は耳にしない音楽を聴いたり、鮮やかな色の衣装を着てみたりという経験は多少なりとも印象に残ったようであった。「モンゴル」という国の理解までをねらうことは難しかったが、異文化の経験、親しみという点では広い意味での国際理解教育の1つではないかなとも感じている。

今回は、夏休みの報告会の一環として行なったので、授業としては単発のものであった。もし機会があれば、何度か授業を繰り返す中で子どもたちがどのようなことを感じ取っていくのかということまではねらうことができなかった。しかし、日頃の生活の中で、テレビでモンゴル特集をやっていたり、某衣料メーカーのCMでホーミーが使われたりと大相撲でモンゴル出身力士が活躍していることもあり、モンゴル文化に接する機会はない訳ではない。そのような機会があったときに今回の授業のことが少しでも頭の片隅に残っていると、今回の授業の意味があったかと思う。

<参考資料・写真等>

モンゴル民話『スーホの白い馬』 大塚勇三 再話、赤羽末吉 画、福音館書店



【写真①】 1 ゲルから見た朝日



【写真①】 2 日常の景色（草原）



【写真①】 3 ゲルキャンプ



【写真①】 4 エルデニゾー



【写真①】 5 ウランバートルの様子



【写真①】 6 ウギノール湖



【写真②】 子供用デール



【写真③】 民族音楽 CD

平成 17 年度 教師海外研修（派遣国：モンゴル）実践報告書

目黒区立碑小学校
三東 高志

タイトル モンゴルってどんな国

実践教科 総合的な学習の時間（時間数：3時間）

対象生徒・学年 6年生

対象人数 60人

カリキュラム案

(1)実践の目的

- ・異文化理解

(2)授業の構成案

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1 限目 身近にないものに興味をもち、今まで味わったことのない遊びを体験し海外の文化に興味をもつ。	<ul style="list-style-type: none">・ブラックボックスに入れたシャガイを触り、中身を想像する。・シャガイを使った遊びを知り、楽しむ。	シャガイ（本物） シャガイの拡大図 占い表
2 限目 自分たちとは全く違う環境で生活する人たちのことについて<シャガイ>という情報1つから想像する。	<ul style="list-style-type: none">・前時の情報をもとに、どんな場所に住んでいるのか想像して描く。・絵を見ながら自分たちが生活するにはあと何が必要か考える。	画用紙 ゲルの模型
3 限目 モンゴル人の衣食住について考え、今の自分たちの生活と、ゲルでの生活を比べてそれぞれの良さに気付く。	<ul style="list-style-type: none">・食べ物や水はどうやって入手するか考える。・衣服はどうするか考える。・ゲルでの生活を写したビデオを見て、東京での生活とゲルでの生活の良さについて考える。・ゲルで生活している人たちの考えを聞き、感想を書く。	モンゴルの写真 モンゴルのビデオ モンゴルチーズ モンゴル衣装

授業の詳細

<第1時間目>

ねらい 身近にない物に興味をもち、今まで味わったことのない遊びを体験し、海外の文化を知る。

学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点
<div data-bbox="341 506 815 607" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ブラックボックスにシャガイを入れて中身が何か想像する。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・石だよ。 ・プラスチックじゃない？ ・骨だよ。 <div data-bbox="341 792 815 842" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 実際に見て、触って考える。 </div> <p>* 「羊の骨」であることを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・えーっ 気持ち悪いー。 ・どこから持ってきたの？ <div data-bbox="341 1099 815 1149" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 実際の遊び方を知り、体験する。 </div> <p>* 実際にモンゴル人の子どもが遊んでいる方法でシャガイ遊びを体験する。</p> <div data-bbox="341 1323 815 1440" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> なぜシャガイ（羊の骨）を使って遊ぶのか考える </div> <ul style="list-style-type: none"> ・お金がないんだよ。 ・田舎に住んでいるんだよ。 ・電気がないからだ。 ・外に出られないのかな？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活班（6班）に袋に入れたシャガイを配る。 ・全員が触るように伝える。 <ul style="list-style-type: none"> ・臭いをかいだり、ぶつけあわせたりしてよく観察させる。 ・指導者が夏に海外から持ち帰った物であることを伝える。 ・きちんと消毒してあり清潔であることを伝える。 ・2通りの遊び方（競馬ゲーム、占い）を紹介する。（A）（B） <ul style="list-style-type: none"> ・自分の生活と比べ、今の時代に骨を使って遊んでいる子どもの様子を想像させる。

<第2時間目>

ねらい 自分たちとはまったく違う環境で生活する人たちのことについて、<シャガイ（羊の骨）>という情報1つから想像する。

学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点
<div data-bbox="339 461 817 582" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>前時の情報をもとに、どんな場所に 住んでいるのか想像し描いてみる。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・山の中だよ。 ・草原だよ。 ・砂漠だよ。 <p>*描いた絵をみんなで見て、条件にあっているものを選ぶ。</p> <div data-bbox="339 920 817 992" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>どんな家に住んでいるか想像する。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・木の家だよ。 ・船の中じゃない？ ・テントだよ。 <p>*ゲルの模型を見て、木製ではないことを知る。</p> <div data-bbox="339 1294 817 1397" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>残った絵を見ながら、自分たちが生 活するにはあと何が必要か考える。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・食べ物 ・水 ・洋服 ・風呂 ・学校 ・仕事 ・病院 ・トイレ ・ナイフ 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをもとに、画用紙に住んでいる場所を想像して描く。 ・<羊の骨>で遊ぶことから、羊を飼っていることがわかる。よって砂漠ではないことに気付かせる。 ・ゲルには木をほとんど使っていないことから山の中ではないことに気付かせる。 ・該当しない絵をはずす。(C) ・今の自分の生活環境と比べて考えさせる。 ・意見が出づらな場合は衣食住に絞って考えさせる。 ・短冊に書いて黒板に貼り、分類する。

<第3時間目>

ねらい

前時に描いた絵をもとに、モンゴル人の衣食住について考え、今の自分たちの生活と、ゲルでの生活を比べそれぞれの良さに気付く。

学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点
<div data-bbox="357 461 820 539" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>食べ物や水はどうやって入手するか考える。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・狩りをするんだよ。 ・羊を飼っているから食べるんだよ。 ・雨水をためるんだよ。 ・川のそばに住むんだよ。 <div data-bbox="357 730 820 786" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>衣服はどうするか考える。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・織るのかな？ ・羊の毛皮じゃない？ <p>*他の疑問点にも答える。</p> <div data-bbox="357 1003 820 1115" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>モンゴル人のゲルでの生活をビデオで東京での生活とゲルでの生活の良さについて考える。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・テレビゲームができるから東京の生活の方がいいよ。 ・塾もないしストレスが少なそうだからゲルの方がいいなあ。 ・勉強があまりできないのは困るなあ。 ・風呂に入れないのはいやだなあ。 <div data-bbox="357 1395 820 1507" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ゲルで生活している人たちの考えを担当が伝え（作文を読む）、今までの感想を書く。</p> </div> <p>*何人か発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家畜の様子、羊を解体する様子、乳からチーズを作る様子を写真で見せる。(D) ・チーズを試食させる。 ・川のそばに住み、必要な分だけくみに行くことを伝える。 <ul style="list-style-type: none"> ・家畜を飼っていることを想起させ、家畜から衣服を作ることを伝える。また、それらを売って現金化しその金で下着などを買うことも補足する。 ・羊の毛皮を使った民族衣装を見せる。 <ul style="list-style-type: none"> ・グループに分かれて考え、画用紙に書いて発表させる。 ・写真を見せながら正解を伝える。 <p>*学校は寄宿舎があり冬の間はそこに寝泊まりして学ぶ。夏休みは家畜の世話をするため3ヶ月ある。</p> <p>*トイレはない。草原全てがトイレ。学校のトイレの写真を見せる。</p> <p>*放牧生活そのものが仕事。</p> <p>*大きな病気になったら馬に乗って近くの町まで行く。</p> <p>*自分たちの価値観を大切にしながら暮らしていることを知り、世界にはいろいろな人たちがいることを感じ取らせる。</p>

授業を終えての児童の感想

- 「ゲルの生活ではケンカもないし、争いも少ない。」その言葉がぼくを印象づけました。日本ではこんな事は考えられません。いつもケンカがあるし、エスカレートするとニュースで報道するような殺人や戦争がおきます。ゲルでの生活をまねれば、僕たちも争いや戦争はやめることができるはずですよ。
- モンゴル人は「モンゴルで暮らして幸せだ。」というのは本当だなと感じました。東京は少し発達しすぎたのではないかなあと思いました。発達しすぎて新しい病気になったり、殺人をしたりしてしまうんだと思います。
一度モンゴルに行って心を休ませたいと思います。
- モンゴルはモンゴルで幸せだし、日本は日本で幸せだと思う。
- ぼくは日本に住んでいて幸せですが、モンゴル人は日本を見たら幸せだとは思わないと思います。ぼくも、日本から見るとモンゴルは幸せな場所とは思えません。一人一人がそれぞれの場所で幸せな生活をしているように思いました。
- 今まで僕はモンゴルなどではなく、アメリカやフランスなどがすごいと思っていた。でもモンゴルの話を聞いたら、モンゴルもすごいと思った。
- 人間の未来を明るくするためには、モンゴルみたいな最低限度の生活をするしかないと思う。
- 僕たちには不自由に見える生活でも、モンゴルの人にとって見れば何も不自由なことがなく幸せに過ごしていることをうらやましく思いました。だから東京もモンゴルのように治安を良くして無駄をなくせば日本の人も幸せになることができるかもしれません。
- 私は東京の生活に慣れているからモンゴルと東京だったら東京を選んだけれど、モンゴルだったらそこでの良いところを、東京だったらそこでの良いところがあるんだなあと思いました。
- 都会に住んでいて感じないことだけれど、改めて周りを見渡してみるとなくても良い物が多すぎるのは事実だと思います。私はモンゴルの生活は大変だと思いこんでいました。でも、それぞれの国の文化の中で生きていくと、良いところとか悪いところがみえてくるけれど、それぞれ幸せなのだと思います。
- 日本では当たり前のように、いろいろな技術があって、とても便利に生活しています。たまに「ここも自動だったらいいなあ。」と思います。けれども絶対に自動にしないでほしいものはありません。今まで自動じゃなくても生活してこれたのだから。きっと今の生活の中でもなくても良い物があるのだと思います。
- モンゴルという国は豊かで平和で最高の国だと思います。もし全ての国がモンゴルのような生活をしていたら、豊かで平和で地球温暖化などの問題が起きないと思います。

授業を終えて

シャガイ（羊の骨）を手がかりに、モンゴルという国について想像し自分なりの考えを持って学ぶことを目的に学習過程を考えた。前半では、遊びを通して「骨で遊ぶモンゴルの子ってどんな人たちだろう？」と想像し、その生活環境を考えた。「電気がないんだ」「食べ物はどうするの？」「トイレや風呂は？」子どもたちの想像や疑問は限りなく広がり、その疑問に現地で取材してきた映像や実物を見せながら、丁寧に答えていった。自分たちとのあまりの違いに子どもたちは感嘆の声をあげ、普段の授業以上に興味を持って学んでいた。

後半はただ単に日本の生活と、モンゴルの生活を比べてその善し悪しを見つけ出す授業にはしたくなかったので、「モンゴル人の感じる幸せ」について考えさせた。その結果感想文などからも、国際理解教育の根源である「他者理解（自分たちと違う価値を認める）」というねらいはだいたい達成されたように思う。自分たちは自分たちで今幸せであるし、私たちから見れば不便に感じるゲルでの生活も、モンゴル人にとっては幸せな生活であることを多くの子どもたちが気付いてくれたことは大きな収穫であった。

今回の学習をきっかけに、自分でも他の国に興味を持って調べ、その良さに気づけるようこれからも支援を続けていきたい。

改善点

- ・「冬（マイナス30度）でも外で小便や大便をするのか？」
「どうして家畜は逃げないのか？」
「どこで異性と知り合って結婚するのか？」
など、こちらが予想しなかった質問が出され、即答することができなかった。もっといろいろな視点から取材してくる必要性を感じた。これらの質問については、ジャイカのモンゴル関係者から伺いたい。
- ・ゲルや草原といった大人の立場で見たモンゴルの写真やビデオはたくさん撮ってきたが、子どもの立場に立った取材が少なかったと反省している。遊んでいる場面や実際に質問するなどもう少し踏み込んで取材していれば、同じ年頃の日本の子どもの心もっと捉えることができたように思う。

資料

< 1 時間目 >

(A) 占い表

http://www.asahi-net.or.jp/~DX7Y-ARI/zatsuzatsu/zakki0409_mongolsuvenir.html

(B) シャガイ拡大図

<http://www.ale-net.com/tokoton/mongoru/su-ho1/seikatu/asobi/shagaa.html>

< 2 時間目 >

(C) ゲルの模型



< 3 時間目 >

(D) (食料)



(ゲルの中)



(ゲルの周りの様子)



(学校のトイレ)



(水)



(ウランバートル市内)



<授業の様子>



平成17年度教師海外研修（派遣国：モンゴル）実践報告書

三鷹市立第一小学校

坂田 明子

タイトル:モンゴルから世界が見える

実践教科:総合・音楽(時間数:4時間)

対象生徒・学年:5年生

対象人数:30人

カリキュラム案

授業の構成案

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1 限目 テーマ:モンゴルを知る ねらい:モンゴルについて知り、興味を持つ。	1.世界地図でモンゴルの位置確認。 2.モンゴルの資料、ワークシートにより、モンゴルという国についての概要を知る。	世界地図 モンゴルの地図 写真 シャガイ ガイドブック ワークシート
2 限目 テーマ:モンゴルを知る ねらい:モンゴルの伝統音楽・人について知る。	1.モンゴルの伝統音楽について、資料・写真・CDにより学習し、感想を言い合う。 2.モンゴルの人について、日本人と比較しながら討議する。	写真 遊牧民の家(ゲル)の模型 伝統衣装 ワークシート・CD
3 限目 テーマ:日本とモンゴル ねらい:日本とモンゴルの関わりを考える。	1.日本とモンゴルについて、考える。(それぞれの良さ、違い、日本の支援等) グループ討議・全体ディベート	ワークシート
4 限目 テーマ:世界とのつながり ねらい:日本の役割・国際理解について考える。	1.国際理解とは何かについて考える。 (発途上国への支援・人間理解について) グループ討議・全体討議	ワークシート

授業展開

時限	学習内容	児童の反応	評価	教材
1	<p>モンゴルってどこにある？</p> <p>モンゴルってどんな国？（政治・気候・人・生活）</p>	<p>家畜が可愛い。</p> <p>羊が中心の食事は、想像がつかない。</p> <p>羊が解体されてかわいそう。</p> <p>とても乾いていて、寒そう。自然が厳しいから、人もたくましいのかな？</p> <p>モンゴルという国に興味を持てたか？</p>		<p>世界地図</p> <p>モンゴルの地図</p> <p>写真</p> <p>シャガイ</p> <p>ガイドブック</p> <p>ワークシート</p>
2	<p>モンゴルの伝統音楽ってどんなの？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホーミー ・馬頭琴 ・オルティン・ドー 	<p>土埃が舞い上がるような感じの音楽。</p> <p>砂漠のような乾いた感じがする。</p> <p>シンプルな声（音）の組み合わせが、日本音楽と似ている。</p> <p>日本人にはない感性の曲。</p> <p>世界にはいろいろな価値観の音楽があって面白い。</p> <p>馬頭琴は形がかっこいいし、音に深みがあっていい。</p> <p>モンゴル音楽の特徴を感じとっているか。</p>		<p>写真</p> <p>遊牧民の家（ゲル）の模型</p> <p>伝統衣装</p> <p>ワークシート</p> <p>CD</p>
3	<p>モンゴルと日本（それぞれの国の良さ・違い・日本の支援）</p>	<p>モンゴルには日本がたくさん支援していることがわかった。</p> <p>日本がそんなに支援する必要を感じない。</p> <p>日本とは人の価値観が全然違う気がする。</p> <p>どうしてそんなに違うのか、直接話して確かめてみたい。</p> <p>モンゴルにはモンゴル特有の価値観がある。それを知りたい。</p> <p>日本に比べ、不便そう。日本人でよかった。</p> <p>モンゴル人はおおらか。自分に合いそう。</p> <p>いろいろな事が日本と違いすぎて面白そう。行ってみたい。</p> <p>モンゴル人はおおらかで、自分に合いそう。</p> <p>人間の価値観は、一人一人違うはず。日</p>		<p>ワークシート</p> <p>ODAの資料（JBIC）</p>

		本人だから、モンゴル人だからと限定して考えたくない。モンゴルの方が合う日本人もいるはず。	
4	国際理解とは？ ～国際理解は人間理解～ 世界の中の日本の役割	世界のいろいろな国の人と話してみたい。言葉ができなくても、ボディー・ランゲージでコミュニケーションできる。 同じ人間だから、人は国境を越えて理解し合えると思う。 子供が苦労するのは気の毒。どの国の子供も幸せになる権利がある。困っている子供たちは助けてあげなければならない。基本的に自国のことは、自分で責任を持ってほしい。しかし、弱い国が自立するまでお手伝いするのは、先進国の責任だと思う。 同じ地球の人間同士だから、国同士が助け合うべきだと思う。 日本の事をもっと知ったり、大切に思ったりすると、他の国の事も大切に考えられる気がする。 国際理解に興味を持てたか。	ワークシート

成果と課題

モンゴルは、日本とかなり違う部分が多いため、子供たちは最初とまどっていた。例えば「羊の解体」や羊のくるぶしで作ったおはじき？のような「シャガイ」は、かなり衝撃的だったようである。また、CDや実際の馬頭琴を演奏して、モンゴルの伝統音楽に触れさせたが、「感覚」でモンゴルを感じる事ができた。今回の実践授業では、友達の考えを聞いたり、討議したりする中で、世界の中での日本の役割、様々な国について知る楽しさや、他国の人とのコミュニケーションに興味を持ち始めたようである。

今後の課題としては、子供の意見の中にもあったように、自国理解なくして本当の意味での国際理解はない。ゆえに、「自国を理解する」学習も深めながら、国際理解の学習を進めていくことが必要不可欠であると考えます。

【民族楽器店で馬頭琴奏者と】



【小学校の校舎】



【モンゴル人教員とのディスカッション】

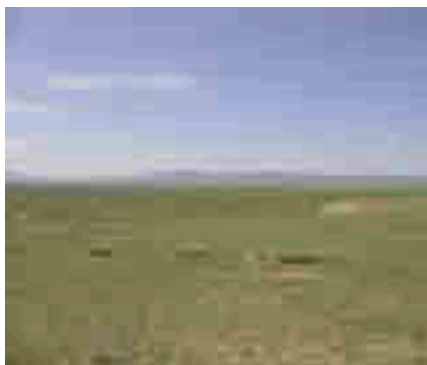
【ボルガン研修センターにて】



【ガンダン寺】



【草原】



【ゲル内部】



【馬乳酒】



【スフバートル広場】



【ゲル】



【家畜の放牧】



【代表的料理：肉まんじゅうスープ】



【羊の解体】



【授業風景】



【授業風景】



【授業風景】



平成 17 年度 教師海外研修（派遣国：モンゴル）実践報告書

杉並区立杉並第六小学校
遠山 典江

タイトル：モンゴルを通して「食」を考えるー今私たちができること

実践教科：6年《総合的な学習の時間》（時間数：19 時間）

2年《国語》（時間数：2 時間）

対象学年：6年2クラス 2年2クラス

対象人数：6年 61人 2年 43人

カリキュラム案

(1)実践の目的

単なるモンゴルを理解するのみの授業を展開するのではなく、対象学年が6年である、文部科学省「学校を中心とした食育推進事業」実践中心校である、そして本校の学校経営方針の1つである「生命を尊重する教育」を推進するために『食育』に関わる授業に取り組んだ。

導入は衣・食・住の3つのテーマに分け、モンゴルという国について理解を深めた。その知識を土台にして、あらためて『食』というテーマに取り組み、モンゴルを含む世界各国や日本の状況から今自分たちができることを考えさせた。

(2)授業の構成案

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1・2時間目《総合》 モンゴルを知ろう 【住】	1.ゲルの中を想像する。 2.フォトランゲージでモンゴルの人々（遊牧民）の住居について意見を出し合う。	・ワークシート ・モンゴルで収集した写真、ゲルのミニチュア、フェルトの座布団等
3・4時間目《総合》 モンゴルを知ろう 【衣・音楽】	1.モンゴルの生活環境を考える（フォトランゲージ）。 2.モンゴルの伝統音楽（ホーミー、馬頭琴）に触れる。	・ワークシート ・モンゴルで収集した写真、デール（民族衣装）、ホーミーのCD、馬頭琴等
5・6時間目《総合》 モンゴルを知ろう 【食】	1.遊牧民の仕事から家畜から食べる物が各種作られていることを知る（フォトランゲージ）。 2.モンゴルチーズを味わう。	・ワークシート ・モンゴルで収集した写真、モンゴルチーズ
7～9時間目《総合》 モンゴルのまとめ	1.学習した3テーマを含め、モンゴルについてももっと知りたい事を、自分自身で調べ理解を深める。	・ワークシート ・モンゴル関係の本、インターネット
10時間目《総合》 すてられる食べ物	1.NHK教育TV『たったひとつの地球』を視聴する。 2.日本の実態から、自分たちはそのことからどんなことを考えるか（問題提起）。	・NHK教育TV『たったひとつの地球』ビデオ ・ワークシート
11時間目《総合》 食べ物について考えよう ー「モンゴル（遊牧民）の食」を通してー	1.モンゴルで体験した羊の解体を紹介、何も無駄にしていないことを確認する。 2.前時の学習を振り返り、日本人の暮らしを考える。	・ワークシート ・モンゴルで収集した写真、羊の骨（シャガイ）
12時間目《道徳》 「いただきます」はだれに	1.「いただきます」は、誰に向かって言うのか。 2.本文を読んで、話し合う。 3.命について考える。	・『小六教育技術』12月号ー2005教科指導ヒントとアイデア集、小学館

13 時間目《総合》 もう 1 枚の世界地図	1.もう 1 枚の世界地図（ハンガーマップ）を見て考える。 2.世界の飢餓について知らせ、日本の食糧状況を考える。	・ワークシート ・ハンガーマップ(WFP) ・日本の自給率、輸入量の推移、食品ロス数
14 時間目《総合》 モンゴルの話を聞こう	1.モンゴルに実際に住んでいた方の話を聞き、疑問に思うことなど質問して交流する。 ※シニア海外ボランティアでモンゴルに派遣されていた方をお招きしてお話を聞く。	
15・16 時間目《総合》 今私たちができること (ディスカッション)	1.これまでの学習をもとに、さらに興味・関心を持ったことを調べ、自分が考えたことを交え発表し討論する(学習のまとめ)。	
17～19 時間目《総合》 ポーズとホーショールを作ろう	1.羊の肉が使われている、モンゴルでよく食べられているポーズとホーショールを作って、味わう。	

授業展開

*総合（11 / 19）

- (1) 主題 食べ物について考えよう —「モンゴル（遊牧民）の食」を通して—
(2) ねらい 羊を大切に育て何も無駄にせず全て頂くモンゴル（遊牧民）の食から、食べ物や命の大切さを考えることができる。

(3) 展開

	児童の学習活動	教師の支援・留意点	資料
導入	1.前時のすてられる食べ物の学習を振り返る。	◇前時の学習を思い出し、私たちの身の回りでは食べ物を無駄にして捨てられていることを確認する。	
展開	1.羊の解体の写真を見て、食べ物について考える。 ①写真を見て、感じたこと等をワークシートに記入する。 ②江口栄養士から栄養の話聞く（羊の肉だけでなく、内臓や血にも栄養があることやそういうものを食べる理由）。 ③モンゴルの食を通して感じたことを発表する。	◇「かわいそう」などの感想にとどまる可能性があるため、解体の様子は丁寧に説明し、これまでのモンゴルの学習を思い出して、羊の料理やその他羊に関わるものを思い出させ、捨てることなくいろいろなものに活用されていることを確認する。 ◇感じたことだけでなく、どうしてそう考えるかという理由も考え発表させたい。	・羊の解体の写真 ・ワークシート
まとめ	3.日本人は食べ物に対して、本当に無駄なことだけをして暮らしているのか考える。 ワークシート記入 考えを発表する。	◇5年生で学習した米作りや田舎の自給自足の生活に触れ、日本もモンゴルの人たちと同じように自然と共に生きてきた、また今も生きていく人たちがいることを感じさせる。	

※授業の様子と児童の反応

【モンゴルを知ろう】 *写真①～⑯

「住」ではゲルの中を子ども達に想像させ、遊牧民の暮らしについて考えた。ゲルの広さが思ったより狭いことに驚いている子が多かった。

この学習で学んだことは2学期末に実施されたかしの木ふれあいランド（学習発表会）で実際の大きさに再現したゲルを発表することにも生かされた。



「食」では家畜を育てて、それから乳製品を作っていることを知ったが、実際にモンゴルチーズを食べた時の子どもたちの反応は……意外にいけるとおかわりをする子、口に合わず食べるのを止めてしまう子……どちらかという口に合わない子の方が多かった。この授業あたりから、自分たちが考えていたモンゴルのイメージとは違うというのが子どもの中に感じられてきたような感じがした。

「衣」では民族衣装（デール、モンゴルブーツ）など実物を見ながらの学習をした。子どもたちから音楽についても学習したいという要望が出たので、併せて馬頭琴やホーミーを鑑賞し、馬頭琴は実際に触って音を出してみる。馬頭琴という名前はしっていたものの、本物の馬頭琴を見るのは初めてに加えて馬の毛で音が出ることに子どもたちは興味津々だった。

【すてられる食べ物】

実践の目的にも触れたが食育に関連する授業を展開するため、この授業より本校栄養士とのT.T授業を行った。

NHK教育TV『たったひとつの地球』という総合的な学習の時間に関わる番組を視聴した。東京都北区のゴミ収集の実態を例にして、賞味期限が過ぎているという理由で口にされていない食べ物がそのままゴミとして捨てられている現状を目の当たりにして「もったいない」という言葉が聞かれた。また、もう1つは北区の小学校で給食を無駄にしないという例が紹介された。たくさん食べられる人がいるクラスに残った給食をあげるということは本校でも行われている。しかし、私のクラスはどちらかという完食をすることは少なかった。栄養士から本校そして6年1組の残飯の量を聞いて、自分のクラスが残飯の量を増やすことに影響していることを知り愕然とする子どもが多かった。この学習を境に、「給食を残さず、食べよう。嫌いなものは少しでもいいから、頑張って食べよう」と口にする子が増えてきた。



【食べ物について考えようー「モンゴル（遊牧民）の食を通して」】*写真⑰～⑳

この学習は今回の一連の授業で重要な学習と考える授業であった。まず、羊の解体の様子を見せるということで、どのような反応が返ってくるのか教える側としてとても興味があった。発達年齢も考えて、解体の様子をビデオを観ることは断念し写真を5枚厳選して、選んだ写真をもとにフォトランゲージを進めていった。「気持ち悪い」という子もいたが、私が思っていたよりそのような声は少なく、意外と冷静に写真の様子を観察していた。解体に使う主な道具は出刃包丁などではなく、遊牧民の人たちが普段から使っているナイフということに驚いていて、血もほとんどこぼれていなく皮と肉がきれいに分けて切る技術に「すごい！」という声が多かった。学習を進めるうちに、何も無駄にしていない（肉はもとより皮や骨まで使っている）ことに気づき、「モンゴル人を見習わなければいけない」「生き物の命をもらっているから無駄にしてはいけない」等の感想があった。



【「いただきます」は、だれに】

日常生活の中で、自分たちが食べているものは自分たちと同じように生きていたことを意識しながら食事をしている子は少ないと思う。また、子どもたちは、「命は大切だ。無駄にしてはいけない」ということは、頭の中では理解しているが、その知識が実際自分たちの生活の中にどれくらい反映されているかは難しいところである。

2時間食べ物のことを学習して、「他の生命をいただいて生きる」「命の大切さ」をより確固たるものにしたと考え、道徳の授業として実施した。

この授業を機に改めて他の生き物の命をもらっているということを実感したようだった。また、前時の授業でもすでに生き物の命をもらっているということを感じている子はいたので、子どもたちの口から



は自然に「自分の命は、いろいろな命をもらっているから無駄にしてはいけない」「命をもらっているから、感謝したい」「生き物が自分の力になってくれるから、自分の命を大切にしたい」等の意見が数々出された。

【もう1枚の世界地図】

題名のない世界地図をグループに1枚渡して、これは何の地図か考えてもらった。子どもたちからは離婚、就職率などの意見が出されていたが、色の違いやある地域に集中していることを助言することでこれがハンガーマップであることに気づいた。

引き続き世界の飢餓状況、日本の食糧事情について学習したが、予想以上に世界の飢餓の状態がひどいことを知り、反面日本はたくさんの食べ物を輸入し、自給率が低いにもかかわらず食べ物をたくさんのゴミとしている実態があることを数値で明らかにされるとどうすればいいのかとすでに考え始めている子もいた。

【今私たちにできること】

これまでの学習の総まとめとして、自分が考えられることは何か、資料をもとにクラス全員に発表してもらった。

今回は単なる調べ学習ではなく、調べたことをもとに自分は何を考え、どんなことができるのかということをお話しなければならなかった。どちらかということこういう授業は子どもは好きではない。普段はインターネットで調べたことをプリントアウトし、まとめることが多いが、今回は調べたことを自分の言葉に直し、身の回りの生活に置き換えていくことをじっくり考えた。子どもの中には何かとてつもなくすごいことをしなければいけないと思いがちで、1人でやるのは難しいと思っていた感じだった。が、学習の終わりの方では、1人1人ができることをやっていくことが大切だということをお考えられるようになったのではないかと、子どもたちのレポートを読んで感じた。

最後にある児童のレポートを紹介する。



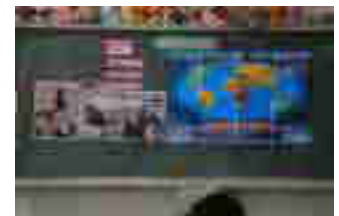
今、世界では何十カ国もの国で食糧不足が起きています。特に発展途上国では5人に1人、ひどい地域では3人に1人が食糧不足です。

そこで、世界では先進国からの資金によって援助活動が行われています。たとえば、アジアではフィリピンにある国際稲研究所の新しい品種開発に成功したこともあり、ほとんどの国で米を自給できるようになりました。このように、食料生産が増えるように収穫量の高い新品種に切り替え、それに合った新しい農業方法を取り入れるその動きを、まとめ

て緑の改革といいます。

そんな改革が起きています中、私たちは食べ物を残しています。それはとても恥ずかしいことだとぼくは思います。もちろん日本では食糧不足なんてないので、ひもじい思いをしたことはないでしょうが、世界には日々の食事のままならような人も実在するのです。おなかがすいたら何かを食べる、そんなあたりまえのことができない人もいます。そういうことを忘れてはなりません。また、食糧不足をなくすには、自分がこの広い地球社会の中の1人であることを自覚することが1番だと思います。そのためには、食料がどんなに大切かを理解し、意識することが必要です。

だから、食べ物の好き嫌いをなくし、残さないようにしなければなりません。それが1番簡単で、いい方法だと思います。



終わりに

1学期、子どもたちにあらかじめモンゴルについてアンケートを実施した。その中で関心が多かったのは、食べ物・モンゴルの子どもたち・遊牧民の暮らしについてだった。興味・関心が多岐にわたっていたのでモンゴルを知るための学習は3つのテーマに絞り、モンゴルを理解する学習を進めることにした。

モンゴルについては、スーホと白い馬・馬頭琴・遊牧民・朝青龍・モンゴル相撲などが挙げられたが、具体的なことはあまり知らない児童が多かった。モンゴル＝遊牧民のイメージが大きかったので、遊牧民の暮らしを中心に首都ウランバートルでの暮らしとも比較しながら話を進めた。

はじめのモンゴルを知る学習は後半の学習の土台にしたいと当初から考えていた。6年生であることから単なるモンゴルという国の理解に終わらせたくなかった。モンゴルを通じて、何かを学んで欲しいというのが私の1番の希望だった。そのため、思い切って羊の解体の写真も見せることにした。やはり、本物を学べば得るものも大きいということを実感した。

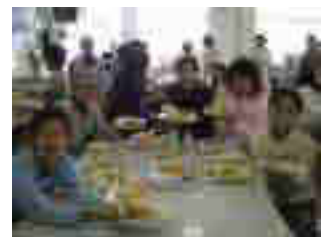
今回の授業を通して感じたことは、「食べ物を大切にする」「命を大切にする」これだけの言葉を、かつ誰でも頭の中ではわかっていることを子どもたちに本当に理解してもらい、実行してもらうことはとても時間がかかることで、一朝一夕ではできないということだ。



モンゴルを知る学習は実際の体験ではなかったが、自分が学習した知識をもとに子どもたちは一生懸命考えた。また、実際にモンゴルのチーズを味わい、モンゴル料理（ボーズやホーショール）を作って食べたことはとても貴重な体験となったようだ。ボーズやホーショールは素材の味を味わうため、醤油等の調味料は一切かけなかった。子どもたちが日頃食べている物にはたくさんの調味料が使われていることを実感するとともに、羊の肉の味や臭いがだめだと言っている子もいた。こんなところからも、日本との違いを実感していたようだった。

まとめの感想（一部抜粋）

- ◎食についての勉強では、世界の「飢餓」について調べました。最初は「飢餓」という言葉も知りませんでした。だんだん調べていくうちに、世界が日本のように豊かにくらしていることはないのだなあとよく考えるようになりました。
- ◎私は、羊を解体している所の写真を見て、初めは気持ちが悪くてモンゴルのことをちょっと良いふうにしてはいいと思いましたが、それは地球にやさしいことと分かって、モンゴルのことに興味を持ちました。
- ◎（ボーズやホーショールを食べて）モンゴルの食べ物は、よけいな味はまったくついておりませんでした。私はそれまで食べていた日本の食べ物とは、少し味がちがうくらいだと思っていました。しかし、モンゴルの物は、ほとんどそのままの味だったのです。私の口には、そのままの味というものは口にあいませんでしたが、このような物を食べる事も大切だと思いました。
- ◎モンゴル調べで1番楽しかったのは食文化の事です。今日作ったボーズ、ホーショールもおいしかったです。モンゴル人はこんなものを毎日食べているんだなと食べて実感しました。モンゴルにも一度行ってみたいと思いました。
- ◎モンゴルの人が、日本の食べ物を食べたら、どんな顔をするのだろうかと思った。甘いおかしが好きな日本人は、モンゴルの料理を食べたら、好きだ、という人は少ないのではないかと思った。食文化の違いはあるけれど、その国の食べ物を見て、「あれはおかしい」と思うのはよくないと思った。
- ◎ぼくは今まで（モンゴルに対して）思ってきたことが失礼だと気づきました。発展途上国だからといって下の位のように見ていました。たしかに技術は進んでいないけど、これからはちゃんとそれぞれを一つの国と見て、いいところを見つけていきたいと思います。



すてられる食べ物の学習後、我がクラスでは給食の残飯0（ゼロ）が続いている。その記録は、今も更新中である。子どもたちが、モンゴルを通じて学んだことを行動に移した1つである。今回学んだことを1人1人が自分の生活にどのように生かしていくか、今後期待している。ある子どもが言ったように、私たちは広い地球社会の1人であることを忘れてはならない。子どもたちが何年か経ってこの学習を思い出し、自分が地球村の住人を確認し、自分のため世界のために楽しく過ごしてくれることを切に願う。

資料

【学習で使った主な写真資料1】

①モンゴルのミルクティ



②馬乳酒



③モンゴルチーズ



④モンゴルチーズ



⑤ウルム (バター)



⑥ハルムク
(ウルムに小麦粉を入れた)



⑦馬の乳搾り



⑧ホルホグ (羊肉の石蒸し焼き)



⑨内臓のブラッドソーセージ



⑩野菜スープとパン (饅頭風)



⑪ボルツク (揚げパン)



⑫ボーズとホーショール



【学習で使用した主な写真資料 2】

⑬ゲルの写真



⑭ゲルの内部 1 (天窗)



⑮ゲルの内部 2



⑯ゲルの内部 3



⑰羊の解体 1



⑱羊の解体 2



⑲羊の解体 3



⑳羊の解体 4



平成 17 年度 教師海外研修（派遣国：モンゴル）実践報告書

成城学園初等学校
的場 あき子

タイトル：モンゴルってどんな国
実践教科：社会科・校外学習（時間数：5 時間＋遠足）
対象生徒・学年：2 年生
対象人数：38 名

カリキュラム案

(1)実践の目的

- ・モンゴルの都市と草原のくらしの学習を通して、同じことと違うこと、違う文化に対しての理解を深める。（異文化理解）
- ・モンゴルにとって重要な5つの動物を通して、人と家畜のつながりを学ぶ。

(2)授業の構成案

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1 限目（社会） テーマ：モンゴル人はどんな人？ 1 ねらい：モンゴル人と日本人はよく似ていることを認識させ、モンゴルへの興味を持たせること。	(1)モンゴルのお菓子を食べてみる。 (2)写真を見てモンゴル人を探す。 (3)なぜモンゴル人だと思ったかを考える。	(1)モンゴルの飴 (2)モンゴルの人物写真 6 枚 (1 枚のみ、担任がモンゴル人と写っている写真を混ぜる) ∴正解は担任以外全員
2 限目（社会） テーマ：モンゴル人はどんな人？ 2 ねらい：前時でのまとめを整理し、写真からモンゴルの生活・文化を知る（主に都市のくらし）。	(1)前時で考えたことを発表する。 (2)写真に関して、エピソードを交えながら解説する。	(1)モンゴルの人物写真 6 枚 (2)ワークシート
3 限目（社会） テーマ：モンゴルのくらしー家ー ねらい：モンゴルの人はどんな生活や仕事をしているのか、考える（主に草原のくらし）。	(1)草原のくらしについて考えてみる（どんな家に住んでいるか？）。 (2)草原の仕事はどんな予想する（遊牧という仕事はどんな仕事か？）。	(1)草原の写真(2 枚) (2)ゲルの写真と模型 (3)遊牧民の仕事風景、ゲル内部の写真
4 限目（社会） テーマ：モンゴルのくらしー仕事ー ねらい：モンゴルにとって重要な5種類の家畜について学ぶ。	(1)モンゴルで重要な5種類の動物は何か？（馬、牛、羊、山羊、らくだ） (2)なぜその5種類の動物が重要なのか考える。	(1)5 種類の動物の写真 (2)ワークシート (3)5 種類の動物のフェルト製人形
5 限目（社会） テーマ：モンゴルの風景色々 ねらい：これまで学んだことをふまえ、モンゴルの写真を見る。	(1)授業で出てきた遊牧民の食べ物を食べる（子どもたちからの要望による）。 (2)モンゴルの風景を解説つきで鑑賞する。	(1)モンゴルの写真 (パソコン＋スクリーン使用) (2)アーロール（乳製品の一種）
まとめ 遠足 多摩動物公園 テーマ：モンゴルの馬を見に行こう！ ねらい：授業に登場した動物たちを実際に見に行き、見たり触ったりしてみる。	(1)モウコノウマを観察し、日本でよく見かける馬との違いを調べる。 (2)山羊や羊を間近で見て、実際に触れてみる。	(1)ワークシート（遠足のしおり）

1 限目「モンゴル人はどんな人？1」

授業内容	子どもたちの反応	教材
① (1 学期の授業で) モンゴルについて何を知りたかったか？ ② それではモンゴルの報告始まり！ まずはみんなに約束していたお土産。モンゴルで一番おいしい飴。 今日は特別、食べながら授業!! まずは問題。モンゴル人の髪の毛、目の色肌の色を想像してみよう。 *1 学期にアジア地域であることは確認済 ③ じゃあ、実際にモンゴル人の写真を見てみよう。この中でモンゴル人はだあれ？ →正解は担任以外全員モンゴル人！	(思い出しながら) 人、家、食べ物、生活、遊び、学校等 →思い出してきた！お土産は!? ・でっかいハイチュウみたい。 ・おいしい！モンゴルの人いいなあ。 ・モンゴルってどこだっけ？ ・朝昇龍は日本人に似ているよ。 ・草原で日陰がないから、日焼けしているんじゃないかな？ *写真の中にそっくりさんがいて大騒ぎ。 ・全部日本でしょ？ ・わからない！ ・よく見たら、違う言葉書いてある。 ・ここ知らないんだけど……ぼくの写真？	・黒板に、草原とウランバートル遠景の写真 ・飴の配布 ・ワークシート①配布 ・黒板に 6 枚の人物写真 (ワークシートと同じもの) ・ワークシート②配布

～所感～

事前研修では、子どもたちにモンゴルの何について知りたいか、と尋ねた。そこで、今回の授業はその疑問に答える、ということで授業をスタートした。国際理解において、違いを教えるのは容易である。だが、子どもたちには、まずモンゴルに対して親近感を持ってほしかった。人に焦点を当てたのは、クラスの子にそっくりな少年に出会ったことがきっかけである。その写真でクラスは大いに盛り上がり、モンゴルへの距離が一気に近くなった。これでモンゴルならではの遊牧民の文化について踏み込んでも、土台はできている。「見知らぬ文化への壁を壊す」という目的は達成できたのではないだろうか。



2 限目「モンゴル人はどんな人？2」


授業内容	子どもたちの反応	教材
① 前回の授業で見た写真は、一体どういう写真なのだろう？ 想像してみよう。 →ワークシートに書き込む ② じゃあ、どんな写真か見ていこう！ →子どもたちの反応を取り上げつつ、写真の解説を行う。	・やっぱり、まどばっちの隣に写っているのは絶対日本人だ！ ・日本と変わらない。 ・モンゴルの人はお洒落だ。 ・本当にモンゴルなの？ ・なんで外で結婚式をやっているの？ ・オボーは山登りに行く積んである石？	・黒板に前回と同じ写真を掲示 ・ワークシート配布

～所感～

この前は、答えのところで終了したため、写真をじっくり見るための授業にした。モンゴルは日本に意外にそっくり、という点では大いに効果のあった授業であった。だが、逆にモンゴルである、ということを確認に伝えるという点が課題となった。要所要所にモンゴル語や、明らかに日本とは違うものが写っている写真を選んだのだが、ここはモンゴルだ、ということがなかなか納得できなかったようである。特に、私の隣に写っている人は絶対日本人だといって譲らなかった。黒板にキリル文字で彼女の名前を書き、名刺を見せて納得させた。「同じけど違う」を伝えるのは、とても難しい。異文化理解においては、今後、改めて取り組みたい課題である。



3 限目「モンゴルの暮らし -家-」

授業内容	子どもたちの反応	教材
<p>①もう一つのモンゴル、草原での暮らしについて考えてみよう。 *どんな家に住んでいるのだろうか？ →ワークシートに書き込む *自分の考えを発表しよう。 →ゲルという移動式の家</p> <p>②移動できる家に住んでいる人々は、どんな仕事をしているのだろうか？ →子どもたちの意見に添いつつ、遊牧民の日常の写真を提示。</p> <p>③遊牧という仕事とその生活 →動物からもらうということ。 (私たちの身の回りのものも同じ) *動物(家畜)と共にある暮らし</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・草ばかり。 ・家はどこ？ ・何をして生きているのかな？ ・材料はどうするのかな？ ・木と草で家を作る。←木がないよ！ ・普段は町に住んでいる。 ・トラックで引越しができる家。 ・自分たちで全部やっている。 ・動物の仕事をしているかも。 ・草だから、何か動物を飼っている。 ・動物をつかまえて売っている。 ・家を建てている。 ・何でも自分たちでするのがすごい。 ・動物から色々なものができるんだ。 ・馬はそんなに大切なんだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・黒板に、草原とウランバートル遠景の写真 ・ワークシート配布 ・ゲルの模型を提示する(実際に触って見る) ・黒板に、遊牧民の生活風景写真を掲示 

～所感～

予想以上に子どもたちはよく写真を読み取ってくれた。草原＝羊飼というイメージが強かったようで、大半の子が動物を飼うと予想した。ミルク＝牛乳だと思っている子が多く、馬乳に対する反応は大きかった。家についても、どこから資材を運んでくるか、電気やガスはどうするか、2年生ながらきっちりポイントを押さえていた。「サーカスみたいな家だったら便利」という発言が出て、子どもたちは移動式の家という結論に達した。



お見事……。

4 限目「モンゴルの暮らし -仕事-」

授業内容	子どもたちの反応	教材
<p>①モンゴルの人々にとってとても重要な5種類の家畜がいる。 その動物はなんだろう？ →ワークシートに書き込む</p> <p>②予想した動物を発表しよう。 ここに答えの写真があるよ。 全部正解できるかな？ →正解は牛・馬・羊・山羊・らくだ</p> <p>③これらの動物とくらす理由は？ →動物からもらうということ。 (私たちの身の回りのものも同じ) *動物(家畜)と共にある暮らし</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・牛と馬は絶対入っている ・らくだの涙ってというお話があるかららくだは入っているよ。→この発言でみんならくだを書いてしまう。 ・あと1つがわからない。(牛・馬・羊・らくだ) ○出てきた動物 牛・馬・羊・山羊・らくだ・豚・犬・鶏 人間・象・ライオン ・牛、馬、らくだ、山羊、羊は色々なことに役立つんだね。すごいなあ。 ・毛で色々できるんだなあ。 ・色々な動物からミルクがとれるんだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート配布 ・5種類の動物の写真 ・フェルト製品 ＝ゲルの材料 ・壁掛け ・5種類の動物の人形

～所感～

クイズ番組のノリでやったので、大盛り上がりの授業となった。羊飼＝犬という連想から、五つ目の動物を犬と書いた子が多かった。動物からずいぶん色々な原料をもらっているということが驚きだったようである。フェルト製品は、子どもたちにとって、非常に原料と製品のつながりがわかりやすい教材であった。異文化理解では、その様な教材こそ威力を発揮する。モンゴルは教材化する上では切り口の多い国ではなかろうか。



5 限目「モンゴルの風景色々」

授業内容	子どもたちの反応	教材
①モンゴルスライドショー ②アーロール試食会	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで食べたことのない味……。 ・おいしい！ ・苦手な味！ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート配布

～所感～

事前研修において出た質問の中で、カバーできなかつた事が何点かあった。そこで、それらを中心に、自分が現地で撮影した写真を使ってスライドショーを行った。合わせて、授業に登場したチーズの一種、アーロール試食会も行った。かなり特徴的な風味の食べ物なので、授業では使用しなかつた。が、どうしても食べてみたいと言うので、結局食べさせた。希望者制にしたが、ほぼ全員が食べ、約3分の1がおいしいとお代りをした。同僚たちの場合、眺めたり、においを調べたりして口に入れるまで時間がかかったが、子どもにそのような壁は全くない。子どもの強さを感じた1コマだった。

遠足「多摩動物公園見学」

午前：アフリカ園をグループ単位で自由に見学
(クイズラリー形式)

午後：アジア園見学。動物たちをクイズを解きながら見学する。
モウコノウマをじっくりと観察し、ワークシートの課題に挑戦。
ヤギに実際に触れてみる。



～所感～

今年度の遠足の行き先は、多摩動物公園であった。そこで、遠足を本学習の仕上げとした。遠足に向けて事前に学芸員の方と打ち合わせをし、モウコノウマに関するワークシートを作成してもらって実施した。学芸員の方は、学校との連携にかなりの実績を持っている。従って、事前に相談するところらのねらいや目的に副うプログラムを提案してもらえる。ワークシートは、モウコノウマの観察を中心とした内容で構成され、打ち合わせの際にももらった様々な動物クイズを組み合わせて遠足のしおりに作成した。みんな熱心に取り組んでくれたが、子どもたちにとっては、大きな柵の向こうのモウコノウマよりも、すぐそばで触れられるヤギの方が印象が強かったようである。実際に学芸員さんによる解説も計画していたが、この日はかなりの団体が来園していたため、人手が足りず実施できなかつた。今回は遠足という行事にリンクさせたが、見学を仕上げにするなら、本来はクラス単位で動き、空いている日を選んでしっかり見学できる体制を整えたい。

子どもたちからのフィードバック

授業終了後、子どもたちからモンゴルに関する名詞が出るようになった。子どもが家で授業の話をして、家族で興味を持ってくれた家庭もあった。意外に保護者からの反響が大きかったため、保護者会でも簡単にモンゴルのことを紹介し、授業で配った飴を食べてもらった。モンゴルに関わる本を見つけてきた子や、モンゴルに関係した映画を見つけてきた子もあり、そのうちの1人が、学校に『らくだの涙』という本を持ってきた。そこで、その子が持ってきた本をスタートに、本学習では扱わなかった文化面に関して授業を行う計画をしている。まだ実践は行っていないため、計画のみ記載する。

授業の構成案 その2

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1 限目（文学=国語） テーマ：モンゴルのお話を聞こう ねらい：学習のへ向けて再導入	(1)以前の学習でどんなことをしたか思い出す。 (2)絵本『ラクダのなみだ』の読み聞かせ	(1)絵本『ラクダのなみだ』 ※実施済み
2～3 限目（文学=国語） テーマ：スーホの白い馬 ねらい：遊牧民と馬の関係を感ぜよう。	(1)教科書『スーホの白い馬』の読み取り	(1)教科書『スーホの白い馬』
4 限目（未定） テーマ：お話にできた馬頭琴と長唄 ねらい：民族楽器馬頭琴と民謡ホーミーを実際に聴いてみよう。	(1)モンゴルの服と楽器を実際に見てみよう (2)本物の音を聴いてみよう	(1)CD（馬頭琴とホーミー） (2)馬頭琴／デール
映画『らくだの涙』を見よう！	(1)映画鑑賞会	(1)DVD『らくだの涙』

平成 17 年度 教師海外研修（派遣国：モンゴル）実践報告書

聖学院中学校高等学校
相澤 睦

タイトル： 五感で感じるモンゴル
実践教科： ホームルーム（時間数：2. 5時間）
対象生徒・学年： 中学1年
対象人数： 42名

カリキュラム案

(1)実践の目的

「モンゴル」に対するイメージは、朝青龍やテレビCM、「スーホーの白い馬」など断片的なものでしかないのが子ども達の現状であろう。その子ども達に、「モンゴル」という国の様々な面を伝え、その立体的なイメージを構築することを目的とする。その上で、さらに自分の国や生活のあり様に、何らかの疑問点が見つかることを期待したい。

(2)授業の構成案

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1 限目 テーマ:モンゴルのイメージ ねらい:生徒達をもつモンゴルに関する知識や興味をわかちあう。そして生徒達の実態の把握。	(1)モンゴルに研修に行くことを話す (2)アンケートをとる	世界地図 アンケート用紙
2 限目 テーマ:モンゴル旅行記 ねらい:研修の概要を伝え、モンゴルの社会や生活を中心に理解する。	写真などを使用しながら、どんな風景を見たか、どんなできごとを体験したかを伝える	写真、チンギスハーンのポスター、モンゴルの地図
3 限目 テーマ:モンゴル人が来た ねらい:モンゴル人(相澤)との交流を通して、モンゴルの文化を理解する。	(1)民族衣装(デール)を着用 (2)モンゴル語で挨拶 (3)馬頭琴の演奏 (4)シャガイを使って遊びを知る (5)都市と田舎のモンゴル人の生活 (6)アーロール(チーズ)を試食しながら、食について話す (7)まとめ	デール、ブーツ、帽子 民族音楽 CD、馬頭琴 シャガイ ゲルの模型、写真 アーロール ゲルキーホルダー、キャンディ、アンケート用紙

本校の概要及び授業実践対象者

本校は東京都北区にある私立男子中高である。生徒数は約 1200 名。キリスト教主義教育を教育の柱としながら、英語教育に特に力を入れている。タイ山岳部や中国での体験旅行、オーストラリアやアメリカでの語学研修旅行に参加することができるなど、国際理解教育にも力を入れている。

本実践は、私が担任している中学1年生のクラスを対象とした。始めは理科の授業での実践を計画していたが、理科という切り口に絞るよりは、ホームルームでの実践とした方が、収集してきた材を活用しながらモンゴルのさまざまな面を提示でき、多面的な理解に結びつけることができると考えたからである。また中学1年生の社会では、世界地理の学習を進めているところであり、他教科の授業内容とも連携が期待できるとも考えたからである。

授業実践

1 限目

◎テーマ：「モンゴルのイメージ」

◎ねらい：生徒達がもつモンゴルに関する知識や興味をわからあう。そして生徒達の実態を把握することにより、帰国後の授業内容及びその手法を考察する材料を得る。

(1)最初に今夏、モンゴルに研修に行くことを生徒に伝えた。そして教室に掲示してある世界地図を示しながら、日本からの距離や緯度、面積、内陸部であること等を発問し、確認していった。

(2)次に、モンゴルというとどんなことを知っているかとの問には、「朝青龍」「馬頭琴」「スーホーの白い馬」といった言葉が返ってきた。

(3)生徒達の知識や興味を知るためにアンケートをとりたい旨を伝え、記入してもらった。

質問と主な答えは、次の4項目である。

○モンゴルと聞いて思い浮かべること→「草原」「羊」「ジンギスカン」「馬」「砂漠」「朝青龍」「ゲル」「スーホーの白い馬」「山」

○どんなものを見てきて欲しいか→「珍しい動物」「食べ物」「草原」「羊を食べる」「生活」「衣装」

○お土産というとどんなものを想像するか→「馬頭琴」「服」「お菓子」「ジンギスカン」「土」「キーホルダー」

○モンゴル人への質問→「知っている日本語」「どこの国へ行きたいか」「主食は何か」
などであった。

(4)以上の実践を通して、モンゴルについて多少知っている生徒でも、2～3項目の単語が挙げられる程度と、中学1年生の割には随分貧弱な知識とイメージであると思った。そこで帰国後の授業実践時にも同じようなアンケートを取り、比較してみてはどうかと思った。



【授業の様子】

2 限目

◎テーマ：「モンゴル旅行記」

◎ねらい：写真を用いて研修の概要を伝え、自分が得たモンゴルのイメージを伝えることを中心とする。3限目にもつながるよう生徒達の興味関心を呼び覚ますことを主眼とした。特にモンゴルの社会や生活を中心に展開する。

(1)写真を通してモンゴル研修旅行の紹介をする。写真は、草原の風景・渡河・ゲル・羊の解体・食べ物・動植物・学校やテニスコートなどの訪問箇所等のものを用いた。

(2)生徒達は、草原の想像を超える広さに驚いたり、羊の解体の話ではギャーギャー騒いでいたりした。みんなが食べているウシやブタもこの羊と同じ動物であり、こうした命の犠牲の上に我々は生活しているという話やモンゴル人は血の一滴まで、ほとんど無駄にしない食べ方をしているという話をした。この時は、皆静かに聞きいっており、「殺した動物はすべて残さずに食べるということがすごいと思いました」という感想が出ていた。また、協力隊の活動として、テニスを教えている人や、学校の補修工事を住民と一緒に進めている人の話には感心しながら聞いていた。

(3)全体的にはほぼ予定通りできたと思うが、途中、生徒達の集中力が欠けたところがあったので、プロジェクターを使って、スライドショーにしても良かったかもしれない。

3 限目

◎テーマ：「モンゴル人が来た」

◎ねらい：モンゴル人(相澤)との交流を通して、音楽・ゲル生活・民族服・食・遊びといったモンゴルの文化を理解する。



【馬頭琴演奏？】

- (1)民族衣装であるデール・ブーツ・帽子を着用し、馬頭琴を抱えて教室に入場。
- (2)モンゴル語で挨拶と自己紹介をする。
教室内を歩き回り、何人かの生徒にデモを示しながら、同じようにモンゴル語で返答がくるまで繰り返した。



【シャガイを手触りで想像する】

- (3)馬頭琴を取り出し、民族音楽 CD をかけながら演奏のまねごとをした。
- (4)生徒を6グループに分け、布の袋に入ったシャガイを配付した。①中の物を手触りや振ったときの音だけで何なのかを推測する。②袋から取り出して、見た目や匂いから推測する。③グループごとに発表する。④くるぶしの骨であると答える。⑤何に使う物かを話し合わせる。⑥再び発表する。⑦遊びについて話をする。
- (5)ゲルの模型を見せながら、ゲルステイの体験談と都市部の家庭の話をした。
- (6)アーロールを希望者に食べさせた。大方の生徒の「信じられないくらいまずい」「ゲロの臭いがする」という感想の中、数人の生徒は「おいしい」といっていた。
- (7)ゲルのキーホルダーとキャンディのお土産を配付しながらまとめを行った。
- (8)生徒の感想：「モンゴルに意外と早く行きたくなってきた」「モンゴルはとても広そうでした。そんなところを馬に乗って走れたら楽しいだろうなと思いました」「先生がモンゴルの衣装を着て登場したので、びっくりしました。モンゴルの生活がすごく分かった」「モンゴルの食べ物や日本との違いなどがよくわかり、モンゴル人が誰でも受け入れてくれるというのが、とても心に残った」「モンゴルといっても羊や朝青龍などしか思い浮かばなかったけど、前回と今回でモンゴルでの食生活や暮らし方、600 km以上移動しても草原が広がっていることなど様々な学びました。ぼくも行きたい！」「めずらしいものが多い」「自分だったらモンゴルには住めないと思った」「現地の人と生活したい」「夜の星を見てみたい」「モンゴルの文化がいっぱい分かった」「日本人がモンゴルに行って色々なスポーツを教えていたことが印象に残った」「遊牧民の暮らしがわかって良かった」等の感想が寄せられた。

まとめ

- (1)ねらい通りに五感を刺激する授業ができたと思う。その為か興味関心を持ち、自分は生活できないとか、逆に暮らしてみたいとまでに思った生徒がいたことは嬉しく思う。初回のアンケートと比べても3限目のアンケートの方が圧倒的に多くの感想や意見が寄せられた。モンゴルという国が身近なものとなったからではないかといえる。
- (2)対象とした生徒が、幼さが残る中1男子であった為か、表面的な感想が多かったことは残念であった。今後も機会がある度に、モンゴルの話をしていけば、徐々に深いところまで考えた感想が出てくるものと期待している。
- (3)最後にゲルのキーホルダーをプレゼントしたが、3回の授業を通してモンゴルのイメージを造り上げていくことができたことから、皆、嬉しそうにそして大事に持ち帰ってくれた。

関連資料

(1)写真



協力隊員（テニス）訪問



小学校視察



草原風景



渡河の様子



ゲルステイ



お世話になった方々



ゲルで馬乳酒のもてなし



馬乳酒を攪拌する



子どもたち



羊の解体



ブロックに分けられた肉



放牧されている山羊・羊



ウスユキソウ



アーロール



ホーショル



協力隊（学校）訪問



教員との交流



日本の歌を披露

(2)現地で収集した資料

馬頭琴、チンギスハーンポスター、デール、ブーツ、帽子、シャガイ、民族音楽のCD、アーロール、ゲルの模型、岩塩、モンゴル国旗、地図

(3)その他

アンケート用紙、世界地図